

# ねがたびと

発行日 令和5年2月24日  
発行者 袖ヶ浦市根形公民館  
〒299-0255  
袖ヶ浦市下新田 1277  
TEL 0438-62-6161

題字：降矢玄龍先生

## 二十歳を祝う会を開催！！

令和5年1月8日(日)、根形地区二十歳を祝う会を根形公民館視聴覚室にて開催しました。成年年齢が18歳に引き下げられたことに伴い、令和5年より式名を『袖ヶ浦市二十歳を祝う会』に改めました。

当日は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の対策を万全に行い、45名の二十歳や保護者、恩師、来賓等が出席し、厳粛な中にも心温まる式となりました。

式典終了後の記念行事では、二十歳を祝う会実行委員自身が企画・運営し、保護者も交えて、恩師による思い出話や写真撮影を行い、中学校時代を懐かしみながら旧交を温めていました。

また、昨年好評であった撮影スポットとして、青少年相談員の協力のもと今年も立派なパネルが設置され、友達同士だけでなく、保護者も交えて笑顔で撮影している姿が印象的でした。

以下に、二十歳代表の言葉（抜粋）を掲載します。ご一読ください。

私達が根形中学校を卒業してからおよそ5年という月日が経とうとしていますが、今日まであっという間だったと感じる人が多いのではないかと思います。しかし、短いように思える5年間で、みんなが別々の世界に飛び込み、それぞれの環境の中で出会った仲間と感動を共有し、そして苦しい思いも経験して「自分の価値観」というものを作り上げてきたことでしょう。その価値観が、社会を担っていく一員として必要な要素であり、自分を見失わないための軸になると私は考えます。この式典で、友人はもちろん、中学生の頃はあまり話さなかった人たちとも、積極的に話してほしいです。きっと、自分には体験しえない話ができると思います。思い返すと、当時は多くの先生方にたくさんご迷惑をかけてしまいました。よく学年集会が開かれていたことを思い出します。それでも、先生方は卒業の日まで親しみやすく接して下さり、学校行事にも私達に負けない熱量で協力して下さいました。魅力的な先生方に囲まれて過ごした3年間は良い思い出です。今日そんな素敵な先生方に晴れやかな姿で再開できることは本当に光栄なことであり、あの時よりも立派になった私達を感じていただけたら嬉しいです。そして、健康な体でこの式典を迎えられたのは、これまで育ててくれた両親のお陰です。冷たく当たってしまったこと、大きな喧嘩をしたこともあり、迷惑をたくさんかけてしまいました。今日をきっかけに、少しでも親孝行ができる立派な大人に近づけるように日々邁進していきます。

二十歳代表 武田 海飛 さん

※二十歳代表の言葉より抜粋

# 二十歳を祝う会 フォトメモリアル



厳粛な式典となりました



恩師を交えた集合写真



二十歳代表あいさつ



司会進行の堀江さんと石川さん



保護者、恩師を交えた記念行事



撮影スポットで記念写真

## ねこまろ スタッフ募集中!

ねこまろがスタートして早9年。  
この3年間は、新型コロナウイルス感染症の発生により、活動内容が制限される中でも、通常版の他、ハロウィンパーティーやクリスマスパーティー等の特別版を企画・運営するなど、N.O.C（大学生を中心とした若者のグループ）メンバーが大活躍しています！  
ともに活動してみませんか？興味関心のある方は、根形公民館にお問い合わせください。

## サークル作品展を開催します!

3/11(土)~  
3/19(日)

作品展

根形公民館で活動するサークル【陶芸・絵画・書道・生け花】等の作品展を根形公民館多目的ホールにて開催します。技術と感性も磨いた1年間の創作活動の集大成は見応え充分！ぜひ足をお運びください。  
※ご来館の際は感染症対策にご協力をお願いします。

# ねこまるクリスマスパーティーを開催しました！



12月24日(土)午後、『ねこまるクリスマスパーティー』を開催しました。根形小の児童16名と保護者1名が参加し、木更津警察交通課職員による講話やクリスマス製作、そり引きゲーム、ビンゴ大会を行い、楽しいひと時を過ごしました。まずは交通安全講話です。歩行者や自転車事故等のビデオ視聴をしながら、交通事故の恐ろしさや起こる原因等を学びました。次はクリスマス製作です。紙皿のクリスマスツリーにビーズ等でデコレーションし、自分だけのクリスマスツリーを完成させました。その後、多目的ホールに移動し、そり引きゲームとビンゴ大会を行いました。そり引きゲームは、子どもたちを3つのグループに分け、出題ミッションの答えをシートに乗った1人を、3人のトナカイ役が引きながら探し出しタイムを競うゲームです。2回戦の合計タイムで勝敗を競いました。ビンゴ大会は、子どもたちに25マスのカードを配り、そのマスに自身で1から50までの好きな数を記入して、1から50までの数を順番に引かせながらビンゴゲームを行いました。ビンゴが成立すると、サンタさんからの贈り物が待っています。子どもたちにとって、約3時間のクリスマスパーティーは、手作りの心温まる会となりました。

クリスマスツリー作り



そり引きゲーム



ビンゴ大会



# 書き初め教室を開催しました！

12月27日(火)午前、根形公民館視聴覚室(小3、小4)と講義研修室(小5、中1、中2)にて、書き初め教室を開催しました。28名が参加し、根形公民館で活動している降矢玄龍先生と書道サークルの「根形書友会」、「望陀書友会」の方々が講師となり、子どもたちは、冬休み中の課題として出された書き初めに真剣な眼差しで取り組んでいました。およそ1時間の中で書き上げた作品の中から、出来の良い作品を先生等に選んでいただきました。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場を2つに分けるとともに、マスクを着用して開催しました。



視聴覚室での様子



講師の降矢玄龍先生



講義研修室での様子

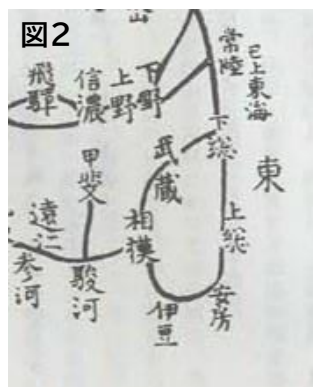
# 鎌倉街道ものがたり (4) - 東京湾を渡る海道の世界 -

郷土博物館 井口 崇

この「鎌倉街道ものがたり」の最後は、海を渡る道「海道」の話です。

大化改新があった7世紀後半以降、上総国は、行政区分でいうと東海道諸国（伊賀・伊勢・志摩・尾張・三河・遠江・甲斐・駿河・伊豆・相模・武蔵・安房・上総・下総・常陸の15カ国）に属していました。そして東海道諸国内には、それぞれの国府を結ぶ官道としての東海道が通っていました。その道を古東海道と呼びます。東海道とは、その名のとおり畿内から東にあって、ほとんどが海に面した国々であり、道としての古東海道は伊勢湾と東京湾を渡るルート(海道)を含むものであります。

右の図1を見て下さい。源頼朝が石橋山の合戦で敗れ、安房国に逃れたルートは①になります。このルートは伊豆半島の付け根の真鶴崎から鋸南町の竜島海岸を想定したもので、その距離は直線で約62kmになります。実は、このルートに限らず伊豆と安房を結ぶ航路が、古代からあったことがわかってきました。海路による交通はもっとも古くからおこなわれていましたが、おそらく古墳時代以降は特に、半島と半島を繋いでいくような航路が開発されていたのだと思います。図2は鎌倉時代前期のもですが、伊豆から安房へのルートが示されていますので、頼朝の時代にはおそらくこの海上ルートがあったはずで



『二中歴』日本図より

図1の②は三浦半島の観音崎付近から富津岬周辺に至る古東海道のルートですが、このルートは『日本書紀』などに示されたヤマトタケルの東征ルートに一致します。4世紀ころの前方後円墳もこのルートに沿って見つかっています。



① 源頼朝の航路 ② 古東海道 ③ 鎌倉街道上総路

さて、次は図1の③。このルートが「鎌倉街道上総路」のルートです。図で分かる通り鎌倉は古代の官道に面していましたが、三浦半島から房総半島へ出るルート(六浦道)の峠に朝夷奈切通を開削し、六浦湊を鎌倉の外港として、物流の拠点としました。

鎌倉時代中期のものとする説話集『沙石集』には、「ムツラト云所ニテ便船ヲマチテ カヅサヘ越トテ」と記されているので、当時はすでにムツラ=六浦からの定期便があったことがわかります。この上総側の湊の記述はわかりませんが、鎌倉街道上総路のルートを明らかにした郷土史家“小熊吉蔵”は、木更津の貝淵にある小字「渡海面」に着目し、木更津湊と六浦湊を結ぶルートを想定しました。おそらく西上総周辺の武士たちはこの道を通って鎌倉に赴いたことでしょう。

また三浦・房総の両半島にある良好な湊では、多くの人と物が行き交いました。鎌倉の寺社の荘園が多かった房総は、いつの時代も都市の穀倉として、また建築資材としての木材や暮らしを支える燃料の供給地としての役割を果たし、中世都市鎌倉や後の江戸、横浜などの主要都市の経済を支え続けてきたのです。(完)